

平成25年度 学校評価について

校長 矢 吹 弘 人

学校では、年度ごとに学校の教育活動をさまざまな視点から見つめながら次年度への改善点を明らかにする活動として「学校評価」を行っています。この中で「教職員の自己評価」「生徒アンケート」「保護者アンケート」「学校関係者評価」の結果をお知らせします。また、この結果や全国学力学習状況調査の結果を踏まえて、「学校改善プラン」「学力向上ロードマップ」についても今後見直しを行い、26年度教育課程（学校の教育活動の全体計画）の編成に生かしていきたいと考えています。

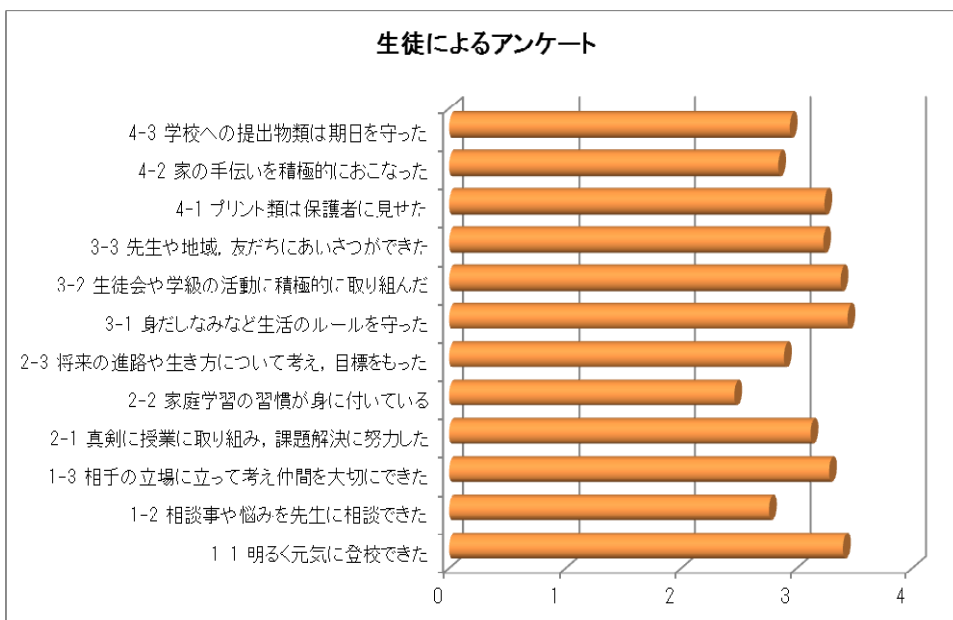
■ 教職員の自己評価による結果から

教育活動全般について10の観点から58項目にわたる評価を実施しました。各観点の平均は4点満点に対して3.19となり、過去5年間の比較では、平成22年度に次ぐ高い数値となりました。

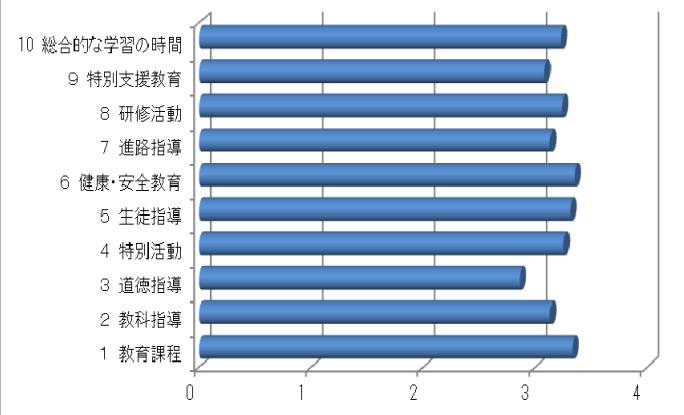
これは健康・安全教育(3.35)、研修活動(3.24)、特別支援教育(3.08)の3項目が過去5年間で最も高い数値であったことによります。しかし、一方では教科指導(3.13)は過去5年間の平均値を下回っており、職員が自信をもって教育活動に臨む姿と今後の課題が明確になっています。道徳指導については、次年度の参観日で授業公開を行っていく予定です。

■ 生徒アンケートの結果から

4点満点に対して3.01となり、平年をやや上回る数値となりました。しかし、このグラフに現れない「授業についての質問項目」については、宿題をもっとたくさん出してほしいと回答する



教職員の自己評価



■ 保護者アンケートの結果から

アンケートの回収率は昨年よりも若干低下していますが、80%以上の方がご意見をお寄せくださり、保護者の方々が学校教育に高い関心をもっておられることを示しています。また、過去2年間の平均ポイントをすべての項目で上回り、学校としては目標を達成していると言えます。

アンケートの結果から、ルールを守り生き方を求める態度の育成(3.39)、集団生活の意義や人間関係の大切さの指導(3.36)、保護者からの相談に熱心に対応してくれた(3.34)、などの項目が高い数値を示し、13項目で3.00以上の値となっています。一方、ご家庭での学習習慣が身に付く指導(2.87)については、今後の課題となることから、学校と家庭の連携により、自己管理能力の育成に向けた取組を着実に進めます。

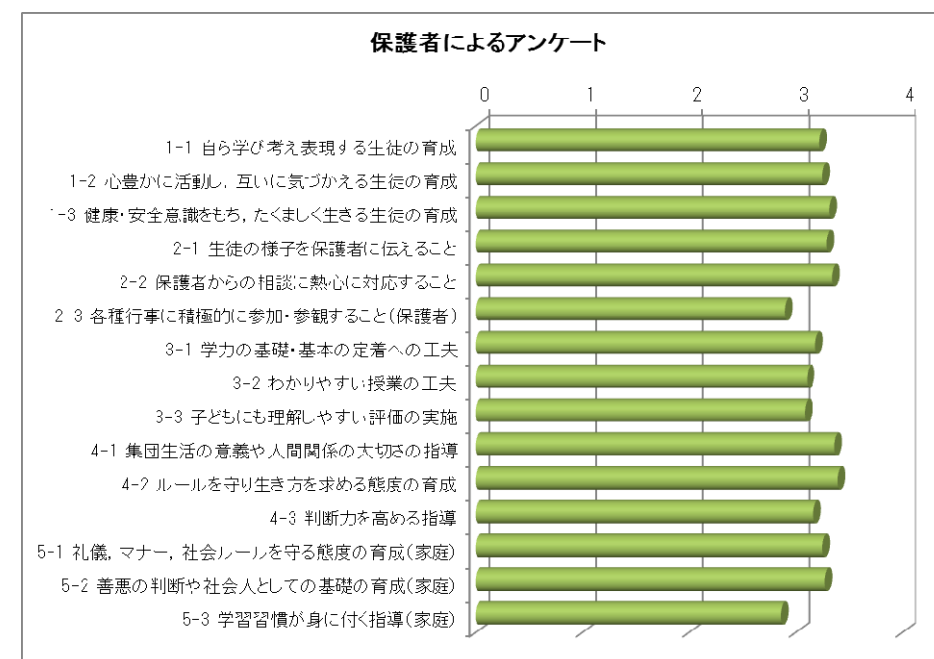


項目	評価 (0-4)
1-1 自ら学び考え表現する生徒の育成	3.5
1-2 心豊かに活動し、互いに気づかえる生徒の育成	3.5

■ 学校関係者評価から

まちづくり推進会議、市民委員会、社会福祉協議会、民生児童委員を代表される方々に、本校の参観日や学校行事で学校の様子を観ていただき、年3回の会議を経て学校を客観的に評価していただきました。

まず「本校の学校評価の方法、内容は妥当であり、改善に向けた取組についてもしっかり検討されている」との評価をいただきました。また「感動体験を重視し、生徒の心を揺さぶる授業を工夫すべきである」「参観日になかなか出席できない保護者もいるので、懇談で話題になったことが学級通信などで伝えられるとよい」「学力向上の数値目標について意識するのはよいが、それにとらわれすぎずに自信をもって実践に臨んでほしい」というご意見もいただきました。授業参観については「お客さんになっている生徒が少ない」とのご感想をいただきました。



統合校新指定ジャージ等決定!

すでに「統合準備委員会だより」で周知された通り、菅公学生服（ブランド名Phiten）の提案が採用されました。現在、細かい仕様（ロゴマークやネームの位置、Ｔシャツの透過性、色合い）の検討を行っているところです。販売は１年後となる見通しですが、現１年生、現６年生は、統合中学校でも３校それぞれのジャージを着続けることができますので、慌てて購入する必要はありません。現在の聖園中学校ジャージについては、例えば「下だけほしい」といった場合でも、販売店に在庫がある限りはその後も購入が可能です。

